

「国民の健康と医療を担う漢方の将来ビジョン研究会2018」開催

2月5日(火)、KKRホテル東京において

「国民の健康と医療を担う漢方の将来ビジョン研究会2018」が開催された。

研究会メンバーとオブザーバーのほか、
日本医師会、日本東洋医学会、日漢協加盟会社、
および報道関係者など156名が参加した。

座長は、代表世話人の北島政樹先生と
世話人の鳥羽研二先生が務めた。



【座長：鳥羽 研二 先生、北島 政樹 先生】



当研究会は、2017年3月に漢方医療を取り巻く課題と
対応策についてとりまとめ、[提言書](#)として発表している。
提言の実現に向けては、
日本東洋医学会では「提言書検討委員会」が設置されている。
また、日漢協では「中長期事業計画2017」に
提言書の内容を盛り込み、
協会内のプロジェクトとして活動をしており、
その一環として「[漢方の将来ビジョン2040](#)」を策定している。

提言書の発表から2回目となる今回の研究会は、
提言を受けて進められている研究事業の現段階における成果や、漢方に関する最新の知見などが報告された。

【基調講演】「高齢社会における漢方」横倉義武先生

高齢社会への医療提供の充実に向けかかりつけ医の役割の重要性、慢性硬膜下血腫の術後療法における漢方薬(五苓散や柴苓湯)の使用が年々増えていることなどを取り上げた。

医療用漢方製剤が直面している課題である保険給付外しについては、漢方の国際化も進んでいる中での議論は世の流れに逆行しているとし、薬価の維持、原料生薬の国内栽培化の強化に向けてさらなる国の支援が必要であることを力強く述べた。



【横倉 義武 先生】



【花崎 和弘 先生】

【講演①】「漢方製剤の薬物動態研究」花崎和弘先生

健常者における大建中湯投与後の薬物動態試験(ADME)について、血漿中の定量可能化合物として山椒、乾姜、人参に含まれる6成分が検出されたこと、うち4成分は薬物用量依存性に血中に存在すること、そこに日米の民族的差はなく個人の体格差・年齢差により影響されることを報告した。この研究に加え、抑肝散、六君子湯の研究結果は、英論文投稿により評価が高まり、アメリカで「Kochi Method」と呼ばれているという。現在は麻黄湯のインフルエンザにおける薬効についてのAMED研究も推進されている。今後は腸内フローラにも着目し、レスポnder、ノンレスポnderの指標をシステム論的に解明していく旨述べた。

【講演②】「フレイル・サルコペニアにおける漢方補腎薬の分子薬理機序」萩原圭祐先生

フレイル・サルコペニアを腎虚の一部症状と考え、老化促進マウスにおいて牛車腎気丸により筋萎縮が予防されたことを紹介した。牛車腎気丸に含まれる化合物の安定性も確認され、その抗炎症作用が抗サルコペニア作用に繋がっていることを報告した。まだ有効な薬剤がないサルコペニアの治療に向け、今後も漢方薬のEBM構築に取り組んでいくと展望を語った。



【萩原 圭祐 先生】



【康永 秀生 先生】

【研究報告】「大規模データを用いた漢方製剤のアウトカム強化および費用分析」康永秀生先生

現在、がん入院患者の8人に1人が漢方を使用しており、特に消化器、女性生殖器などに使用頻度が高いことを示した。また、半夏瀉心湯による抗がん剤(イリノテカン)の副作用緩和、大建中湯によるCOPDに対する抗コリン薬(LAMA)の副作用緩和により、イリノテカンおよびLAMAの忍容性を改善したことを報告した。



研究会終了後、報道関係者を対象に会見が行われた。

講演した各先生の研究に関する内容や、研究会の今後の展望について、活発な質疑応答が行われた。

開会の挨拶 高久 史磨 先生(地域医療振興協会 会長)

座 長 北島 政樹 先生(国際医療福祉大学 副理事長・名誉学長)
鳥羽 研二 先生(国立長寿医療研究センター 理事長)

【基調講演】「高齢社会における漢方」
横倉 義武 先生(日本医師会 会長)

【講 演】「漢方製剤の薬物動態研究」
花崎 和弘 先生(高知大学医学部外科学講座外科1 教授)

「フレイル・サルコペニアにおける漢方補腎薬の分子薬理機序について」
萩原 圭祐 先生(大阪大学大学院医学系研究科先進融合医学共同研究講座 特任教授)

【研究報告】「大規模データを用いた漢方製剤のアウトカム評価および費用分析」
康永 秀生 先生(東京大学大学院医学系研究科臨床疫学・経済学 教授)

【ディスカッション(委員からの意見等)】

閉会の挨拶 北島 政樹 先生(国際医療福祉大学 副理事長・名誉学長)

【出席者一覧】



会長	高久 史麿	(地域医療振興協会 会長)
代表世話人/座長	北島 政樹	(国際医療福祉大学 副理事長・名誉学長)
世話人/座長	鳥羽 研二	(国立長寿医療研究センター 理事長)
世話人	合田 幸広	(国立医薬品食品衛生研究所 副所長)
世話人	秋下 雅弘	(東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座 教授)
委員/演者	横倉 義武	(日本医師会 会長)
委員	山本 信夫	(日本薬剤師会 会長)
委員	河本 滋史	(健康保険組合連合会 常務理事)
委員	佐藤 弘	(日本東洋医学会 会長)
委員	小松 かつ子	(富山大学和漢医薬学総合研究所 教授)
委員	袴塚 高志	(国立医薬品食品衛生研究所 生薬部長)
委員	手代木 功	(日本製薬団体連合会 会長)
演者	花崎 和弘	(高知大学医学部外科学講座外科1 教授)
演者	萩原 圭祐	(大阪大学大学院医学系研究科先進融合医学共同研究講座 特任教授)
演者	康永 秀生	(東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻臨床疫学・経済学講座 教授)
オブザーバー	厚生労働省、文部科学省、 医薬品医療機器総合機構(PMDA)、日本医療研究開発機構(AMED)	